

ESD-J 2004 年度事業報告

< 任意団体 2004 年 4 月 1 日～2004 年 12 月 10 日 >
< 特定非営利活動法人 2004 年 12 月 11 日～2005 年 3 月 31 日 >

1. 概要

2003 年 6 月に発足した「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議(ESD-J)は、今年度 2004 年 7 月 4 日に NPO 法人設立総会を開催し、12 月 10 日、NPO 法人格を取得した。当法人はその前身である任意団体から活動及び財産の全てを引き継ぎ、活動を継続して行うこととなっている。このため、今年度の事業報告は、任意団体期間(2004 年 4 月 1 日～2004 年 12 月 10 日)と NPO 法人期間(2004 年 12 月 11 日～2005 年 3 月 31 日)を通した報告とする。

2004 年度は ESD-J の活動の二年目にあたり、また「ESD の 10 年」開始に向けた重要な準備期間でもあった。ESD-J は 2003 年度から 2005 年度までを ESD 推進のための基盤整備の期間と位置づけ、

- 1) 情報共有 : ESD および ESD の 10 年の周知と、ESD に関する情報提供・交流の基盤をつくる
- 2) 政策提言 : ESD が市民参加、協働、地域主体で推進されるような体制と制度の基盤をつくる
- 3) 地域ネットワーク構築 : 地域で ESD を進めていく上でのネットワークの基盤をつくる
- 4) 国際ネットワーク構築 : 日本と海外の情報交換・相互交流の基盤をつくる

に取り組んできた。

さらに 2005 年は ESD の 10 年スタートの年となることから、関係団体・行政機関・国連機関の協力・参加のもと、3 月 6 日にキックオフミーティングを開催し、今後の連携の基礎を作ることができた。

2. 事業活動

1) 情報収集・提供および出版事業

2003 年度はウェブサイト立ち上げ、メーリングリストを運営することで、情報共有の基盤をつくってきたが、2004 年度はこれら電子媒体のバージョンアップに加え、紙媒体として「ESD レポート」を季刊で発行することができた。また、「ESD レポートを読む会」の開催を呼びかけたことから、各地にそれが広がり、ESD 運動のツールとしても活用され始めている。また、環境教育や開発教育の学会・研究集会・ネットワーク会議など様々な会議の場を捉え、ESD に関する情報提供をおこなってきた。

< 主なトピックス >

- ・ ESD レポート発行(9 月、12 月、3 月)
- ・ ウェブサイトのリニューアル(3 月)
- ・ ESD レポートを読む会開催(9 月～2 月で 12 回)
- ・ 「ESD-J2004 活動報告書」発行
- ・ 協力・共催事業(8 件)

2) 調査研究および政策提言事業

政府においては関係省連携による推進体制作りがなかなか進まず、ESD の 10 年国内実施計画策定に向けた取り組みもほとんど進展しなかったため、ESD-J の提言活動はこの体制作りへの働きかけが中心となった。また、環境省の「ESD 国内実施計画ガイドライン策定事業」に参画、さらに独自に勉強会やワークショップを重ね、国家実施計画の策定プロセスや実施計画の大枠に関する提案をまとめた。

< 主なトピックス >

- ・ 「ESD の 10 年に向けた政府の取組みに対する要望書」を小泉首相へ提出(6月2日)
- ・ 政策提言勉強会「総合的な学習の時間とESD」開催(12月14日)
- ・ 検討会・ワークショップ等を10回開催、「ESD の 10 年に向けた提案」をまとめる
- ・ 環境省「ESD 国内実施計画ガイドライン策定事業」において提案を作成
- ・ グローブジャパン(環境議員連盟)を通して、政府の体制作り等に対する提言を提出(3月)

3) 地域ネットワークの形成および交流支援事業

地域の ESD の担い手をネットワークすることを目的としたこの事業は、2005 年までに全国 47 都道府県で地域ミーティングを開催することを目指し、2004 年度は 8 地域、これまでで計 23 地域で実施してきた。また、2004 年度はこれら地域の担い手が集まり、課題の共有や次のステップのあり方を模索するコーディネーター会議を 2 回開催した。そこでは、地域ミーティングの開催後、継続して勉強会などを開催し、活動を発展させているところもあるものの、次のステップに進むためのサポートを必要としているところも多いことがわかってきた。

<主なトピックス>

- ・ 地域ミーティングの共催(鳥取、福井、埼玉、長野、千葉、栃木、三重、東京)
- ・ コーディネーターミーティングの開催(7月4日、10月11日、2月23日、3月6日)

4) 国際ネットワーク推進事業

国内外で行われた 5 つの国際会議や国際ワークショップに参加し、「各国の動きを互いに把握しあい、自国の取組みに有効な情報を収集できるネットワーク」の重要性を主張し、賛同者を集めてきた。中でも 2005 年 1 月にインドで開催された「持続可能な未来のための教育」国際シンポジウムでは、「全ての国に地域及び国レベルのネットワーク拠点を構築し、連携させる」という内容を盛り込んだ宣言文書を作成するに至った。

<主なトピックス>

- ・ ACD「環境教育推進」対話～ESD の 10 年に向けて(6月7-8日)
- ・ エコアジア 2004 鳥取(6月20日)
- ・ おかやま ESD 国際ワークショップ～マルチメディア・ICT ツールの活用(8月24-28日)
- ・ TVE 東アジア中堅映像関係者研修会(中国)(11月2日)
- ・ 「持続可能な未来のための教育」国際会議(インド)(1月18～20日)
- ・ 英文ウェブサイトのリニューアル(3月)
- ・ 多言語パンフレットの作成(英語、韓国語、中国語)

5) その他の事業

* ESD の 10 年キックオフ・ミーティングの開催

2004 年度の活動の集大成として、2005 年 3 月 6 日にキックオフ・ミーティングを開催した。当初は政府に国としての開始式典の開催を働きかけていたものの、見通しが立たないことから、NGO の呼びかけによるキックオフへとスタンスを切り替え、30 を超える NGO・マスコミ・国際機関との共催・協力で、200 名の参加者を得て実現した。キックオフにはユネスコ・バンコク事務局長をはじめ、政府各省、国会議員、市長、NGO、経団連など、主要なステイクホルダーが参加し、結果として第一回 ESD ラウンドテーブルとすることができた。

* 地球環境基金「環境 NGO と市民の集い」の企画運営受託

(独)環境再生保全機構・地球環境基金より、基金の助成を受けている NGO と市民の交流事業である「環境 NGO と市民の集い」の企画運営を受託し、2004 年 12 月 15 日「あらたな連携のかたちを見つけよう！環境 NGO・企業のパートナーシップ」をテーマにシンポジウムと活動報告会を実施した。日経エコロジーおよび日経 BP 環境経営フォーラムの協力を得、企業へのアプローチの足がかりを作ることができた。

<主なトピックス>

- ・ 環境 NGO と市民の集い「あらたな連携のかたちを見つけよう！環境 NGO・企業のパートナーシップ」開催

(12月15日)

- ・ ESDの10年キックオフ・ミーティング「未来への学びをはじめよう」開催(3月6日)
- ・ 読売新聞朝刊に1頁を使ったキックオフ・ミーティング報告が掲載される(3月19日)

3. 会議等

<任意団体運営委員会>

第8回運営委員会 4月10日

第9回運営委員会 5月13日

<任意団体総会>

臨時総会 4月10日

通常総会 7月4日

<役員選挙>

4月26日～6月7日

<NPO法人総会>

NPO法人設立総会 7月4日

<NPO法人理事会>

第1回理事会 7月4日

第2回理事会 9月25-26日

第3回理事会 12月19日

第4回理事会 3月5日

<NPO法人PTリーダー会議>

PTリーダー会議 8月10日

PTリーダー会議 11月9日

PTリーダー会議 2月25日

4. 会員・理事・事務局等(2005年3月末現在)

<会員>

団体正会員 80団体 個人正会員 85名

団体準会員 7団体 個人準会員 104名

賛助会員 2団体

<理事> (以下敬称略)

代表理事 阿部治

副代表理事 池田満之、牛山佳久、関口悦子

理事 伊藤通子、岩崎裕保、大島順子、上條直美、川嶋直、小金澤孝昭、清水悟、新海洋子、竹内よし子、辻英之、新田和宏、降旗信一、三隅佳子、森実、森良、山本幹彦

<監事>

浅見哲、世古一穂

<顧問>

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル、松浦晃一郎、水野憲一

<事務局>

事務局長 村上千里

スタッフ スティーブンス野口扶弥子、二ノ宮リムさち、渡辺いずみ